

「土砂災害が起きて」

さぬき市立石田小学校 4年 佐々木 愛葉 さん

今年の夏は、全国でたくさんの雨がふり、山がくずれて土砂が町に流れこんだり、川のかべがくずれてこう水になり、たくさんの家が水につかったり、人がなくなったりしました。

わたしの家は、今、建てられている寒川小学校のすぐ下にあります。そ母に聞くと、むかし、うら山にはため池があったそうです。

四十二年前、大きな台風がきて大雨になり、うらのため池の土手がくずれたそうです。ため池の水や土砂がドーンと言う音と共にそ父の家に流れこみ、ざしきが土でうまったそうです。そこでいつも、生まれたばかりの父がねていたそうですが、その日は、たまたま二かいでねていてぶ事でした。そ母は、「もう少しため池が大きければ家も流されていたと思う。家族が全員ぶ事で良かった」と話していました。その時、父か土砂にまきこまれていたかと思うと、わたしは、こわくなりました。わたしは、この話を聞いて土砂災害は身近に起きている事だと思いました。

そこでわたしは、父からハザードマップという物があり、住んでいる町の土砂災害が発生するおそれのある場所をしめし、さらに、土砂災害の知しきや、ひなんに関する情ほうなどを書いた物だと教えてもらいました。

ハザードマップでわたしの家の場所を調べてみると、土砂災害特べつけいかいくいきになっていることを知っておどろきました。土砂災害特べつけいかいくいきとは、マップの中でも赤くぬられた部分で、土砂災害により建物がはかいされ、住みんの生命または身体に明らかにき害がおこるおそれがあるくいきの事だそうです。

父に聞くと、土砂災害特べつけいかいくいきに住むためには土砂災害ぼう止法というのがあり家を建てる時も、がけから何メートルはなして家を建てなければいけないという決まりがあったそうです。そのためなかなか家を建てるきよかがおりなかったそうですが人の命を守るためには必要な決まりがあるのだと思いました。

さい近は地球温だん化のため、雨はむかしよりふる量が多く、長くつづくことがあります。大きな台風も日本にくる回数がふえてきたとニュースを見て知りました。そのため、わたしのように土砂災害特べつけいかいくいきに住んでいなくてもひがいにあうかのうせいがあります。そこでわたしは災害にたいする心がまえを調べてみました。

一、雨の量に注意する

テレビやけい帯電話、有線などからけいほうやひなん情ほうを集めます。

二、ひなん場所を決めておきます。

家族で話し合い、もしも災害が起こってしまったらどこへひなんをするか決めておきます。

三、非常持ち出しぶくろを用意します。

かいちゅう電とう、ラジオ、食べ物着がえなどをじゅんびしています。

四、「自分だけはだじょうぶ」と思わない。

「まだ、だいじょうぶ」、とか「うちは安全だ」とか思わずにきけんを感じたらすぐにひなんしようと思ます。

さい後に、土砂災害の事を調べて、昔の話を聞いたり、自分の親の話を聞くことができとても勉強になりました。災害は身近に起きることだと思いましたし、自分のことは自分で守らなければいけないと感じました、ハザードマップは、土砂災害だけでなく洪水やつ波などのきけんくいきを書いてある物もあるのでみんなにもっと知ってもらいたいと思ます。